

無料版

7月号



毎月1日発行
第51号 定価 540円 (本体500円・送料別途)
本社 東京都新宿区高田馬場 3-23-3 ORビル6階
☎ 03(3371)9340 FAX 03(3371)9596 www.u-car.co.jp
本紙の無断転載・複製を禁じます

購読・広告のお申し込みは
☎ 03-3371-9340
発行所 (株)ユーストカー (株)ユーストカードットコム

暴落から 年末反騰
2017年相場予測第2弾
必殺相場人



本紙1月号で紹介した今年の中古車相場予測。新車の「当たり年」が今年の3年、5年、7年前に当たり、車検周期と一致することから今年には新車需要が活発化、中古車相場が暴落する可能性を報じたものだった。年明けから半年が経過した今、相場はどう変動したか。2017年前半を検証し、併せて後半の相場予測をお伝えする。

2017年
ユーストカー NEWS
1月号特集の検証と後半予測

「確かに3月くらいまでは安かったけど、最近の相場はしっかりしてるんじゃない?」
「例年との違いといえば、今年は値の入るクルマと入らないクルマの差がはっきりした気がする。」
「いずれも取材した買取り店幹部たちの意見だ。どちらも本紙1月号の記事について否定的な意見だが、本紙はあえて「予測は当たった」と宣言しよう。」

査定泣かせのライトその理由は?
ユーザー買取車は
ワンプラでも別格の注目度
11画 検査の匠

「売りたいなる方学」
最強買取店の教則レクチャー
あなたに売りたい!
魔法の言葉「売いトーク」

オークネオステーションハイパー AucNeo Station HYPER
新セリ入会キャンペーン
3会場同時参加可能
圧倒的な検索利便性
オークネット TVAA 共有在庫市場&一撃市場
レギュラーコース 通常月額 29,800円
全国77オークション会場にリアルタイム応札出来る
ライブオークション 通常月額 5,000円
全国117オークション会場に事前入札できる
アイオーク
入会后1年間限定
34,800円相当 通常合計
キャンペーン特別月額費用
14,900円/月 57%OFF
2年目以降は、月額34,800円でご利用いただけます。

オークネットなら年間500万台、117会場から仕入れが出来る
本件についてのお問合せ先 ▶ 株式会社 オークネット・セールス アンド サポート ☎ 03-5548-6151 URL: www.aucnet.co.jp



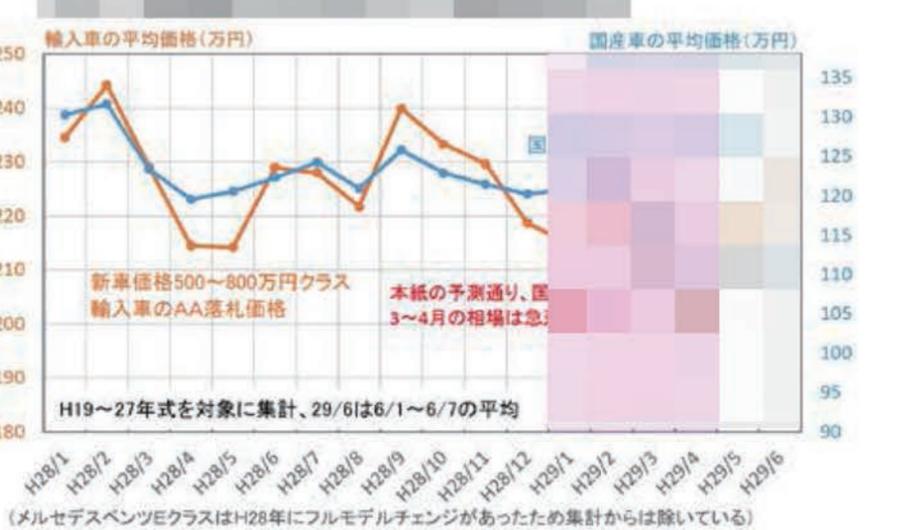
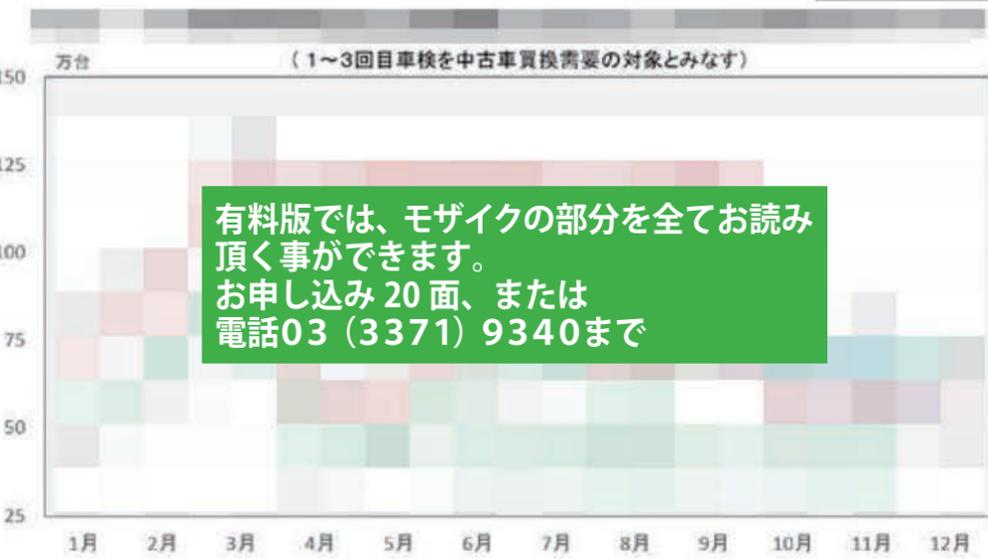
《一面のうき》

本題に入る前に、まずは1月号の記事をおさらいしておこう。

1月号の記事の趣旨は、

この3つをミサイルに見立て、今年には3基のミサイルが相次いで飛来するため相場が暴落する、との予想を立てたのである。

ではなぜ、この3つの年が特別だったのか。詳しくは、後ほど図1で説明するが、



今年に比べて約90万台も少なかったのである。

それでは図1をご覧ください。今年と昨年(H28年)、それぞれ

最も差が開いたのは3月で、実に36・4万台も差があったのである。

では、実際の新車登録はどうだったか。次ページに掲載した図4、

ここで図2を見ていただきたい。詳細は後述するが、昨年から今年にかけてのAA相場の推移を示したものだ。

以上のように、われわれが1月号で予想したことは、少なくとも今年前半については当たったと

言えるのではないだろうか。

続いて今年後半の中古車市場がどうなるのか、詳しく検証してみよう。

今年の後半は、か。

ここで疑問なのが、ある。

われわれが前半の相場暴落を当てられたのは、

図1の9月からの青い部分は、

図7を作成した。

われわれは、今年の秋から年末にかけて車検予備軍が減ることに注目し、

ここからわかるのは、実は

と

ちなみに消費税増税の年である青の棒も、前年であるH25年9月から台数が高い水準にあることから、この時も

4本の棒のうち、右端の赤い棒は

今年はこの

が、この

グラフからは読み取れる。

昨年

今年はこの

が、この

グラフからは読み取れる。

昨年

**USS R 2017 7/25 TUE 新会場 グランドオープン 1周年記念AA**

**取引1台賞 ダーツチャレンジ!!**

**全コーナー出品料 無料!**

**豪華賞品 その他多数! はずれでも参加賞あり!**

**ホワイトコーナー 特別応札保証は後日発表!**

**早期搬入受付 7/11(TUE)~**

**特設 ディーラーコーナー 開催**

※賞品の交換は11:00~となります。※賞品はなくなり次第終了となりますのでご了承ください。※賞品は予告なく変更する場合がございます。※掲載の写真・イラストはイメージです。

USS R 名古屋 〒476-0005 愛知県東海市新宝町507-52 TEL.052-601-6100 FAX.052-601-6102



図7 国産乗用車 + 輸入車 新車登録台数の推移

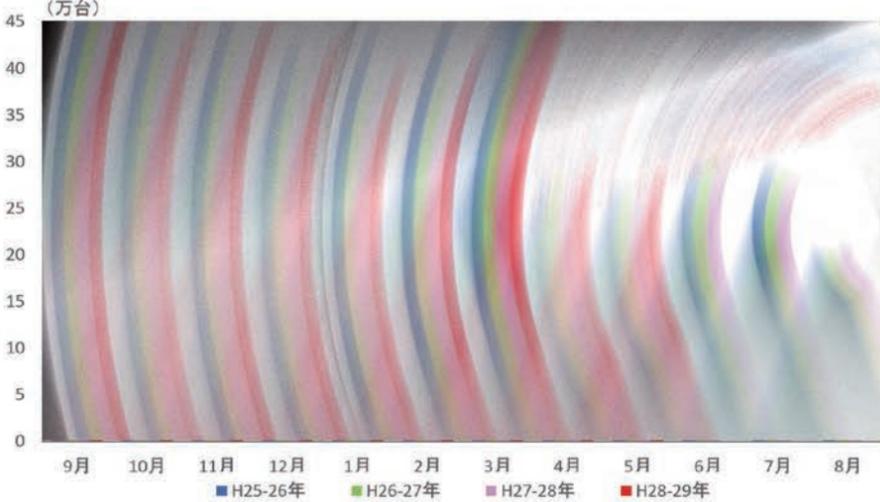
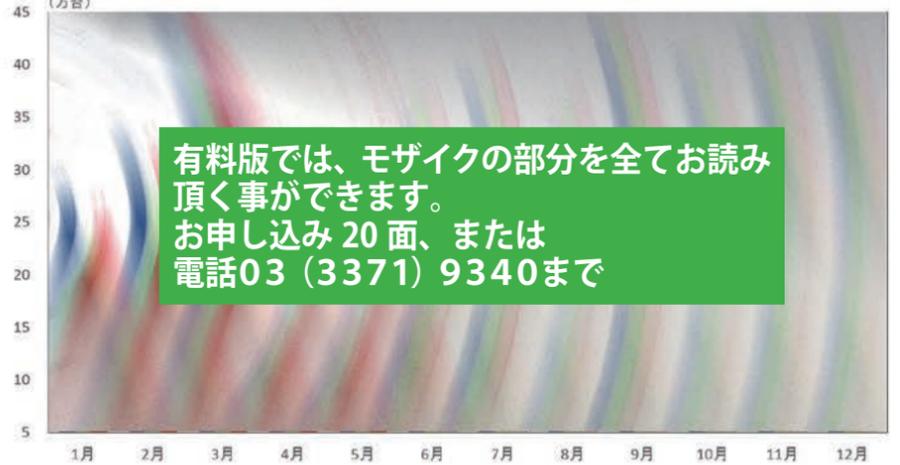


図4 月別新車登録台数 (H26年・H28年の実績とH29年予測)



有料版では、モザイクの部分全てお読み頂く事ができます。  
お申し込み 20 面、または  
電話03 (3371) 9340まで

図5 H23年国産車・輸入車の新車乗用車登録台数推移

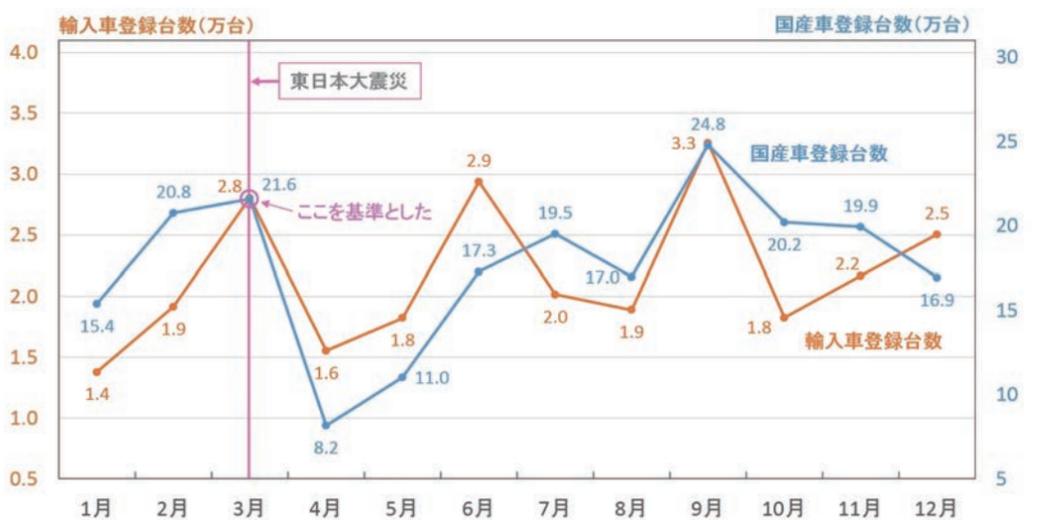


図6 H26年国産車・輸入車の新車乗用車登録台数推移



本来は単純に「そこに需要があっただけ」と考えるのが正しいのかもしれない。  
**国産車と輸入車の中古車相場動向の違い**

さて、冒頭でお伝えしたように、一部の現場からは「3月までは確かにAAの出品は増えたが相場は下がった実感が無い」との意見が聞かれた。実は「相場は下がってはいない」と認識している人たちのバックグラウンドを調べてみると、ある特定の共通点があること

がわかった。この意味を皆さんにもお伝えしよう。きつかけは、

このように、今年前半のAA相場は、国産車と高額輸入車で異なった動きをしていたことがご理解いただけたらだろうか。一口に中古車といっても、すべてが同じではな

有料版では、モザイクの部分全てお読み頂く事ができます。  
お申し込み 20 面、または  
電話03 (3371) 9340まで

「地震に動ぜず、増税に反応」の輸入車購買層  
いのである。  
ところで、今回の調査過程で年毎の登録実績を調べたところ、国産車と輸入車で新車の販売動向も大きく異なっていたことも明らかになった。顕著だったのが東日本震災のあったH23年と、消費税増税にともなう駆け込み需要にゆれたH26年だ。  
図5は、東日本震災が国産車と輸入車の販売にどのような影響を及ぼしたかを示したものだ。震災のあった3月に基準を揃えることで、その後の増減が比較できるようになっている。国産車と輸入車では単位が異なるので、ご注意ください。  
まず注目していただきたいのが震災翌月、4月からの推移だ。国産車は3月の21・6万台(前年同月比43・0%減)から4月は8・2万台(同57・0%減)へ推移。その後は上下動を繰り返した後、3月の台数を超えたのは、ようやく9月になってからだった。  
一方の輸入車は、3月の2・8万台(前年同月比16・2%増)から4月は1万台(同45・4%減)と、こちらも大幅に減少したものの、6月には早くも3月の水準を超え、10月以降は右肩上がりである。

# 18th Anniversary

7月19日(Wed)  
開場18周年記念AA

【Auction Schedule】

7/5 G-1オークション  
7/12 MIRIVEメンバーズAA  
7/19 開場18周年記念AA  
7/26 ディーラー会協賛AA

◆ 7/19 開場18周年AA企画 ◆

- 【その①】 全車流れ無料
- 【その②】 早朝来場プレゼント
- 【その③】 フリードリンクサービス
- 【その④】 お取引賞

Change x Value Up

www.mirive.co.jp

**株式会社 MIRIVE**  
埼玉県深谷市田中2631  
TEL:048-583-7811  
FAX:048-583-7812

落札料  
**8,000円~**

会員募集中  
詳しくはWEBから

- ・ 入会金 **無料**
- ・ 年会費 **無料**
- ・ 月額費用 **無料**
- ・ 保証人 **不要**
- ・ 入札料 **無料**
- ・ WEBから申込み
- ・ 最短当日審査完了



もつとも、その後はやはり、輸入車のほうが年末に向けて回復していることも、**図6**からお分か

りいただけるだろう。大震災によって日本全国が買い控えムードに覆われたにもかかわらず、輸入車はさほど買い控えがなかったのに、消費増税、つまり支出には敏感に反応したということだ。

**図6**は、H26年の消費税率引き上げの影響を表したものだ。この図も国産車と輸入車で単位が異なるので、ご注意を。注目していただきたいのは国産車と輸入車、それぞれ3月から4月への動きだ。茶色の折れ線で示した輸入車が、震災のときとは逆に、国産車以上に落ち込んだことがお分かりいただけると思う。

**図5**、大地震の時はさほど動じなかった輸入車購買層が、消費税増税には敏感に反応したのだ。

最後に、今年後半の新車需要の具体的な予測台数と、中古車相場動向をお伝えしよう。

《3面5JJき》



のが**図4**の6月以降、ピンクで示した棒だ。ご覧の通り、

予測だ(予測値はピンクの棒)。なお、

ちなみに今春、日本自動車工業会が発表した2017年度(H29年4月~H30年3月)の登録台数予測(乗用車のみ)は281.6万台(暦年(H29年1~12月)と年度の違いはあるが、かなり近い数字だ。新車登録台数がこの通りで推移するならば、

◆  
◆  
— いかがだったでしょうか。今回の分析は、中古車流通に携わる皆さんが日々感じている感触に合っていたり、疑問にお答えする内容になっていただろうか?

本紙ではこの夏、中古車相場予測を解説するセミナーの開催を予定している。その中で今回の記事も詳しく解説するので、期待して欲しい。

◆  
◆

◆  
◆

## ユーザーはいつクルマを買い換える……?

# 車検残月と買換えの関係が明らかに!

中古車査定時における車検残月数毎の査定数構成比分布



エンドユーザーはどんなタイミングで愛車を買換えるのか?

弊社の「査定システム」のデータ分析から、こんな疑問に答えるデータがまとまった。車検証と査定日データから、車検までの残り月数を割り出したもので、サンプル数は1万件以上。

読者の皆さんもこのデータを活用し、管理顧客に対する働きかけに活かしていただきたい。



大好評!! 過去1年以上オークション出品歴のない車両が多数出品! 2つのEX、魅力の成約率!!

## 売切りEX & トレタマEX

株式会社JU岐阜羽島オートオークション 〒501-6330 岐阜県羽島市堀津町2211番地 tel 058-398-5100(代) fax 058-398-5109 http://www.i-gforce.co.jp

